

2022.1



佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して News & View



〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

炎症性腸疾患 (IBD) センターの設立

炎症性腸疾患センター長

江崎 幹宏



我が国における炎症性腸疾患 (IBD) の患者数は右肩上がりに増加しており、潰瘍性大腸炎は24万人、クローン病は7万人超と推定されています。また、10〜20歳の若年者に多く発症することから、経過中に就学、就労結婚、妊娠、出産などの様々なライフイベントにも影響します。一方、高齢患者さんも増加しており、対象患者さんは全年齢層にわたっています。

近年のIBD治療の進歩に伴い、個々の患者さんの病態に即した治療選択を行うということがますます重要になっていきます。また、病気がどうまく付き合っていく必要があるため、医師(消化器内科、消化器外科、小児科等)だけでなく、看護師、栄養士、ソーシャルワーカーといった多職種専門家がチームとなつて、それぞれの患者さんの背景に合わせて支

援していくことも重要とされています。このような背景から、当院では、佐賀県並びに近隣にお住まいのIBD患者さんにより良い医療を提供することを目的として、炎症性腸疾患 (IBD) センターを設立いたしました。患者さんが安心して質の高い専門的な治療が受けられるよう多職種チームで支援すること、IBDに関する知識の啓蒙、教育活動やスタッフの育成を図ることを主眼に置き、IBD診療を通して地域医療に貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



▲IBDセンターミーティングの様子

就任挨拶



蒲原 啓司

2021年(令和3年)11月1日付けで、佐賀大学医学部胸部・心臓血管外科学講座教授に就任いたしました。私は、地元佐賀県多摩市の出身で、1993年に佐賀医科大学を卒業後、胸部心臓血管外科医の道に飛び込みました。私の専門は、心臓血管外科の中でも、主に成人の心臓大血管疾患に対する外科手術であります。今回、教授就任にあたりまして私の役目としては、これまでの経験を活かし佐賀の地域医療に貢献すべく診療、教育、研究に邁進することであると考えております。

そのためには、まず、診療面では、定型的な外科治療は勿論のこと最先端治療を安全かつ適切に導入し個々の患者さんに適した外科治療を提供することで佐賀の心臓大血管疾患治療に貢献していきたいと思っております。教育面では、関連施設を含め豊富な手術症例のもとに充実した外科医療教育プログラムを運営し、佐賀の地域医療を支える胸部心臓血管外科医を育成していきたいと思っております。研究面では、現在、世界的に注目されている再生医療の技術を駆使し、実臨床に即し治療成績向上に直結するような新たな治療法を確立するための基礎、臨床研究体制を構築していきたいと思っております。

最後にありますが、今回、医師として地元佐賀県の皆様へ恩返しを頂戴するべく精進してまいりますので、今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

外来再整備が半ばを越えました



副院長(再整備担当)
倉富勇一郎

病院再整備の最終段階である外来診療棟の再整備はⅥ期に分けて進められています。1期では旧薬剤部跡地に外来診療ブースを整備し、ここを種地として、その後の外来整備が進められました。また、外来の南側を増築し、エスカレーターや吹き抜けが整備され、全面に拡がったガラス窓の外側には佐賀錦を模したルーバーが設置されました。ルーバーにより南からの太陽光を夏期には遮り、冬期には取り込む仕掛けとなっています。Ⅱ期では1階のメディカルサポートセンター、総合外来2階の小児科、産科婦人科、3階の泌尿器科、精神神経科外来が整備されました。

そして、この度Ⅲ期外来再整備が終了し、11月22日から新しい外来、部門での診療が始まっています。Ⅲ期で整備されたのは、2階では共通専門外来と光学診療部、3階では眼科、耳鼻咽喉科外来です。これまでに整備された新しい外来は、地域連携や診療連携が強化されるとともに、患者さんの導線やアメニティ・プライバシーに配慮した、きれいで機能的な空間になっています。ルーバーを通して灯りが輝く夜景も美しく見事です。残り2階の共通専門外来、3階の歯科口腔外科、ペ



▲正面玄関(夜景)



▲眼科・耳鼻科待合

子どもセンターにプロジェクターを設置



子どもセンターセンター長
松尾 宗明

佐賀大学医学部附属病院子どもセンターでは、入院中の子どもたちや付き添いのご家族に少しでも笑顔届けられるよう、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会など季節ごとのイベントやボランティアによるマジック教室、大画面でのバーチャル水族館などの催しを行ってきました。しかしながら、2020年からのコロナ禍でこれらのイベント開催も難しい状況が続いていました。

そのような中、2021年10月に院内の有志なごを中心としたOG団体「よかことしよう会」からの寄附で、ブレイルームに大型スクリーンとプロジェクターが設置されました。以前行ったバーチャル水族館など映像コンテンツの視聴がいつでも可能になり、早速、少人数グループで楽しんでもらっています。迫力ある大画面で子どもたちにも大好評です。



子どもセンターセンター長

放射線部 機器の更新について



放射線部 診療放射線技師長
北村 茂利

放射線部は中央診療部門であり、全身の画像検査診断や放射線治療などを行っています。近年、様々な機器の新設や更新をしました。(別表)

主な最新機器についてご紹介いたします。

核医学部門ではSPECT-CT、PET-CTを更新しました。SPECT-CTはCT搭載型となり、CTとの合成画像を駆使した詳細な検査ができます。PET-CT(写真)は半導体検出器を搭載し、より高精度で多彩な撮像が可能となりました。

CT部門では高度救命救急センターにCTが新設され、急患検査への迅速な対応が可能となり、もう一台は、最新技術を搭載したCTに更新し、低被ばく撮影や従来得られなかった付加情報の取得が可能となりました。

放射線治療部門ではリニアックと腔内照射装置を更新しました。リニアックは、回転型強度変調放射線治療の照射法を導入し、腫瘍への限局照射に加え、腫瘍周囲の正常組織への線量を従来法より抑えることができるようになりました。

その他部門では、乳房撮影装置(断層撮影と生検が行える)、泌尿器専用の透視撮影装置、一般撮影(長尺)などの最新機器が導入されました。

放射線部では最新機器を効果的に使用しながら、患者さんにとってより安心安全で高度な医療を目指していきます。



▲PET-CT装置(最新)

放射線部 更新装置一覧
Cアーム透視撮影装置(据置・移動型)
透視撮影装置
回診車(病棟用・感染室用)
歯科用 CBCT・パノラマ・デンタル装置
一般撮影(胸部・骨部室・長尺撮影可能)
SPECT-CT
PET-CT
CT(救急室用)
最新CT
腔内照射装置
リニアック
乳房撮影装置(断層・生検可能)
透視撮影装置(泌尿器用)

栄養治療部の紹介



栄養治療部 副部長
管理栄養士 射場裕美子

2021年9月より、臨床面をさらに強化するため「食育指導センター」から「栄養治療部」へ名称変更をいたしました。

日々の食事は私たちの身体をつくる大切なものです。食事を見直すことで生活習慣病の予防・改善だけではなく、治療効果の向上や合併症の予防、栄養状態の改善、免疫力低下の防止など様々な効果が得られることがわかってきました。入院中の食事は治療の大きな要素の一つですが、味しみの追求を行っているように常に美味しくしたいだけというように、飲み込みやすさに配慮した「形態調整食」、化学療法中の方でも食べやすい「有明食」、調理師が献立を担当し腕をふるう「特別室食(鍋島食)」など様々な取り組みも行っていきます。

私たちは、栄養サポート班(SN)をはじめ、複数の診療科・病棟カンファレンス等に参加し、患者さんの状況・治療方針等を共有することで治療のサポートを行っています。また、入院栄養指導教室(集団指導)・外来栄養指導を通して、家で食事について取り組んでいただけるよう、患者さん個人の生活背景に合わせた相談を行っています。

私たちは栄養の専門職として、今後もいっそう「食」の支援をすることにも、地域への働きかけも行っていきます。と考えています。



▲特別室食(鍋島食)

診療科紹介

歯科口腔外科



教授
山下 佳雄

歯科口腔外科では口腔がん、口唇裂口蓋裂、顎変形症、顎顔面外傷、歯性感染症など多岐にわたる顎顔面疾患に対して手術を中心とした治療を行っています。これら疾患の術後の多くは様々な機能障害が生じるため、患者さんのQOL向上のため顎骨再建、顎顔面補綴治療を積極的に行う機能回復に努めています。特に咀嚼、審美機能の回復のために開院以来、デンタルインプラントを取り入れてきました。一方で近年、扁平苔癬などの粘膜炎疾患、顎関節症、口腔乾燥症等の疾患を有する患者さんが増加しており、口腔内科的な診療も並行して行っております。紹介される患者さんは佐賀県内外から受診されるため、後方支援病院の拡張も進めております。

院内においては、当然ながら歯科

としての責務も果たさなくてはなりません。他科の入院、外来患者さんに対する歯科治療の対応も求められています。特に周術期における口腔機能管理の重要性が周知されニーズも増加しております。マンパワーの不足分に関しては地域歯科医院との連携にて対応し、医科歯科連携の拠点として頑張っております。

さらに、院内の横断的診療班である口腔ケアサポート班、栄養サポート班、緩和ケア診療班にも参画させて頂き、医療の質向上に努めております。

今後は佐賀県の口腔医療の中核的役割を担っていきたく存じます。



▲カンファレンスの様子

連携病院長会議を開催



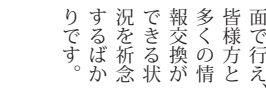
メデイカルサポートセンター長 野口 満

10月23日(土)、令和3年度の佐賀大学医学部附属病院連携病院長会議が開催されました。コロナ禍のため、昨年同様のハイブリッド開催となりました。

開会にあたり、山下病院長より日頃の連携協力への感謝の言葉が述べられ、松永啓介先生(佐賀県医師会会長)、吉原正博先生(佐賀市医師会会長)お二人より、日頃の連携と今後更なる連携向上を目指すと挨拶を頂きました。

メデイカルサポートセンターからは、5月よりメデイカルサポートセンターが全診療科介入を開始し、当院受診の患者さんの様々なサポートを行っていることご報告を行いました。また、コロナ禍にあっても、紹介率97.4%、逆紹介率99.1%と高い値で地域連携が良好に機能していることが示されました。

その他、大学病院から、以下の5つの項目のご紹介がなされました。(1)皮膚科学講座の杉田和成教授(2021年4月着任)より自己紹介。(2)Pact活用(©Humanbridge ©RNACONnect)による予約システムとピカピカリンクによる連携



▲山下病院長 ▲佐賀県医師会 松永会長



▲佐賀市医師会 吉原会長

連携病院紹介

独立行政法人 地域医療機能推進機構 佐賀中部病院

【病院の紹介】

佐賀中部病院は、元々社会保険病院として設立されましたが、平成26年4月にこれまで別々の組織であった社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院の3つの団体が1つに統合され、独立行政法人地域医療機能推進機構(CHO)として生まれ変わりました。本院は平成8年に現在の兵庫地区に移転し、健康管理センターと介護老人保健施設を併設しております。病棟は3病棟からなり、3階病棟は主に外科・整形外科・婦人科・眼科、4階病棟は主に内科系の急性期病棟として計116床を、5階病棟は地域包括ケア病棟として計44床(現在はコロナ病棟として代替え中)を運用中です。

本院は中部医療圏での佐賀大学医学部附属病院、好生館、NHO佐賀病院に次ぐ4番目の公的医療機関で予防、急・慢性期治療、介護に至るまでをシームレスに行うことができる医療機関です。今後は本院の特色を生かしながら地域医療に貢献していきたく存じます。

本院の医師派遣の多くを佐賀大学に頼っていることもあり、連携もスムーズで紹介・逆紹介も積極的に行われています。特に大学の超・急性期治療が終わっても直接在宅へ帰るのが不安な患者さんについては本院で継続治療・リハビリを行うことで安心して在宅での生活ができるような受け入れを行っています。

また、本院は佐賀大学の臨床研修協力病院ですが、ここ数年は初期臨床研修医が回ってこない状況が続いていますので、学生に対しては本院の魅力により一層アピールしていきたいと考えています。どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。



院長 浅見 昭彦